

イヌワシ保護回復事業計画の評価検証結果について（概要）

1 イヌワシ保護回復事業計画

- ・翼を広げると 170～210cm にもなる大型猛きん類で、県内の広い範囲に生息するが個体数は 30～40 つがいと推測される。特別指定希少野生動植物。
- ・ 計画策定年度：平成 18（2006）年度




2 計画の目標・取組事項

- (1) 目標
 - ・ 当面 10 年間は、これ以上繁殖率*を低下させない
 - ・ 1980 年代と同様の繁殖率 50%を目指す
- (2) 取組事項
 - ・ 開発等の影響低減、生息情報の収集・管理・利用、生息環境の改善

* テリトリーを持つペア数に対する巣立ちヒナを育てたペア数の割合

3 計画策定以降の対象種の動向

長野イヌワシ研究会による生息・繁殖状況等の調査結果にもとづき作成した。

指 標	計画策定時	評 価 時	動向
確実に生息が確認されているペア数	H18 年（2006 年） <u>22 ペア</u>	H25 年（2013 年） <u>19 ペア</u>	 やや悪化
平均繁殖成功率*	1995 年～2004 年 (10 年間) <u>25.5%</u>	2005 年～2012 年 (8 年間) <u>24.9%</u>	 横ばい
1997～2012 年に繁殖に参加した 14 ペアの繁殖動向	期間の前期（97 年～04 年）、後期（05 年～12 年）で繁殖成功回数を比較 ・繁殖成功回数が増加したペア：4 ペア/14 ペア（29%） ・繁殖成功回数が減少したペア：8 ペア/14 ペア（57%）		 悪化

* 繁殖参加を確認したペア数に対するヒナを巣立たせたペアの割合の平均

4 成果

- 森林整備による餌場環境の改善が一部の生息地で着手された。
- 本事業の中核的な主体である長野イヌワシ研究会との情報交換がすすめられた。
- 開発等の影響低減が促進されたほか、雪のため落下した巣棚の復元作業が実施された。

5 専門委員会による保護回復事業計画の継続に関する判定と意見（評価検証結果）

- (1) 計画継続に関する判定：計画継続（部分的な修正を含む）
- (2) 付帯意見（概要）：
 - ア 脊椎動物専門小委員会の付した意見（生息状況を引き続き把握すること、環境省等と県境を越えた取組の連携を検討すること等）に今後対応されたい。
 - イ 事業等の影響行為を事前に減少させるため、効果的な情報収集・指導体制について今後具体的に検討されたい。
 - ウ 今後の評価では、生息場所の自然環境に関する分析も加味されたい。
 - エ つがいごとの保全対策の実施においては、関係者と十分に調整を図るとともに、長野イヌワシ研究会の体制支援のため、関係機関の連携を強化すること。